

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

## 生命誌の広場

### テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

### あなたの考えをお聞かせください

### ご意見はこちらから

### 最新のお返事

- 2019年10月02日  
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日  
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日  
[原爆について](#)
- 2019年09月05日  
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日  
[この夏一番元気だったものは？](#)

### 最新のご意見

- 2019年09月27日  
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日  
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日  
[原爆について](#)
- 2019年09月05日  
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日  
[この夏一番元気だったものは？](#)

### 過去の書き込み

2019年 10月  
GO

### みなさんからのご意見



#### 中村桂子の「ちょっと一言」

#### 受け継いでゆくこと

投稿日：2016.10.20 ニックネーム：おかげさま

けいこ先生～  
最近、地元の地質学の先生の講義を受けたばかりで  
けいこ先生の記事がタイムリーだったので、筆をとりました。  
私の暮らす兵庫県では、阪神淡路大震災が21年前にあり  
そのときに、地元の地質学の先生は、酷く酷く甘さに悔やみ、それを教訓に、  
退職後も地域の地学屋になる！！と、現在も、フィールドワークを学生たち  
とされています。

本気だこの先生と思った私は、その先生に地球の生い立ちから、現在に至る地  
元の地質の生い立ちを、質問し現在、一緒にいるんな見解から紐解くお勉強も  
楽しんでいます。

「人新世」のはじまり～は、耳の痛い、私たちの生きてきた移行期でもあるた  
め、申し訳ないと思う気持ちもありますが

行く末の人類完全絶滅は、私は無いとっていて  
それに近い状況が、雪だるま形式に来てしまわないように、今この時代に生き  
ている、気付いた人たちが、それぞれの叡智を持ち寄り、どのような地球生命  
体を望むのか、縮図で言えば  
私はどうするのか、私の周りからどうするのか、ひとりふたりさんにん  
と・・・微力な叡智を持ち寄り、身近な場所から、立て直し、整えをライフワ  
ークにしてゆきたいと、思って人生を楽しみたいと思います。  
なぜなら、種として人類が存在した役割があると、私はおもうからです。  
それは、他の生き物に出来ないことができる新参者としての人類が揃って、生  
態系のバランスは、取れて行くものだと思いたいからです。

けいこ先生の叡智、そして想いを活かし、受け継いでゆける地球生命体である  
ように！！

つながってゆきます。

### お返事

投稿日：2016.10.20 名前：中村桂子館長

「人新世」という意識をもつことは自分で自分を滅ぼすようなことはすまい  
という気持ですからおっしゃる気持は共有します。絶滅があるかないかは私  
たちには決められないこと、恐竜の絶滅は恐竜のせいではありま  
せんもの。生きものとしてのつつましさを持って生きていくことを楽しもう  
と思っています。



#### 中村桂子の「ちょっと一言」

#### 人が生きているかぎりできることがある



### 新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

いくつか感想があります。まず、毎日新聞の図に示された時代区分の名称は時代が下るにつれ極端に短くなっていて、人新世にいたっては、ほとんど一瞬にすぎない、こうしたものを同列に扱っていいのか、ということが第一です。ふたつめは、人新世がもし人類の滅亡の時であるとするなら、滅亡するのは人だけではなく人と生存条件をともにする生き物すべてが滅ぶことになり、人だけが消え去るということはないだろうということです。短期的には、人はほかの生き物よりしぶとく生き続ける可能性が強いのではないのでしょうか。みつめには、いずれにせよ人は今の形のままで滅びると決まっていると、現代文明についての反省がいったいどれほど人の生存の長さに意味ある違いをもたらすのか、私個人の考えではたいして変わらないと思います。ただ、現在に生きる人間がどれほど楽しい人生を味わえるか、ということが大切だと思います。その意味で、生物全体の生存を脅かすようなことを日々積み重ね続けている今のありようが、一人ひとりの生活をみじめなものにするとともに、今生きている生き物のうち、人と同じ条件にあるものの現在と未来を一蓮托生にしているという点で、人以外の生き物に対しても責任があるということを考えなさいということかもしれません。十万年の猶予期間が100年で終わってしまったのは悲しいことだと思いました。

## お返事

投稿日：2016.10.20 名前：中村桂子館長

おっしゃる通り50年は短かすぎるという意見は当然あるわけですが、このようなことを考えずにはいられない状況であることも確かですので、専門家がこのような問題意識を持つことは大事だと思っています。今後を予測することはできませんが、皆で生き方を考える時にあるのではないのでしょうか。正解はありませんが、生命誌は生きものの歴史に学んで生きものとしてどう生きるかを考えていきたいと思っています。正しい、正しくないではなく、考えながら進みたい気持です。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### ちょっと一言を読んで

投稿日：2016.10.05 ニックネーム：J・H

我が家の庭でもドクダミには閉口しています。抜いても抜いても毎年出てきます。ドクダミの繁殖力にお手上げです。

別名「十薬」と言われるほど薬効もあるようですので、乾燥させてお茶にしてみたり、焼酎につけて化粧水らしきものを作ってみたりもしましたが続きませんでした。

コラムを読ませていただいて、ふと思い出したのがオオイヌノフグリとかネジバナ（もじずり）といった清楚でかわいい花々です。

庭にオオイヌノフグリの水色の花を見つけると「あゝ、春になったな」と感じたものですが、そういえば、ここ何年も庭では見ていません。

「雑草というものはありません」と言われた天皇のお言葉、本当ですね。ドクダミさんには少しご遠慮いただいて、かわいい草花を咲かせたいです。

## お返事

投稿日：2016.10.06 名前：中村桂子館長

ドクダミ仲間ですね。我が家にはオオイヌノフグリ、ネジバナは顔を見せてくれます。もう一つ根をしっかりと張って繁殖力旺盛の住人を思い出しました。ミズヒキです。これも可愛いのですけれど。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 活かすこと巡るために

投稿日：2016.10.03 ニックネーム：おかげさま

けいこ先生、最近の子どもたちも、田舎では草遊びしていますよ♪。

昔のように、物が無い時代では無い現代ですし、物騒な現代が高じて自然離れもありますが、若いお母さんたちは、だからこそ？、お金を払っても、草遊び

をさせてくれるような所へ、子どもたちを連れて行く傾向も見受けられます。

雑草は、雑草で良いと私は思っています。  
良し悪しではなく。

私も畑を無農薬でやっているせいか、雑草をどのように扱うかが、日々の仕事で。

雑草も命ですけど、食べれる雑草（野草）は、私の食で頂き  
土の状態を知るためにも、その土の上に生えている雑草の種類は、観察の指標ともなり、最終は、土の肥え（土の中の生き物のエサ）として、雑草を漉き込みます。

無駄が無い（笑）  
自然の循環、雑草も役目をいっぱい果たしてくれます。

人は、さまざまな万物をどのように活かしたら、生態系がバランスよく循環してゆくのか・・・  
そんなことを考え、試し、観察し、検証してゆく、面白さもあると、私は思うんです。

人間の欲で、森を無くしたり、海を埋め立てたり  
そんな技術があるなら  
森に生きる生き物を、活かしたり、海の生き物を活かす技術に変えて、自然を活かしながら、人間と他の生き物の棲み分けもうまくいくようなアイデアに、国のお金も日本人の技術も、使ってゆけたら、いいな～とも思います。  
個人資産でも、いいですけどね。

## お返事

投稿日：2016.10.04 名前：中村桂子館長

メールありがとうございました。  
子どもたち草遊びしているんですね。一緒に遊んでみたいです。無農薬の畑で食べものを作っている生活は、大変だけど豊かでしょうね。私も庭のヨモギで草餅をつくるというおままごとの延長を楽しんでいます。

▲ ページの先頭へ

サイトのご利用について | プライバシーポリシー | サイトマップ | アイポリシー | サイトマップ

**BRH** JT生命誌研究館  
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.